## ユーザー訪問 まの薬局(滋賀県大津市)

## 調剤ミス防止システム「ミスゼロ子」は 複数軟膏剤等の混合でも安心して使える

まの薬局では、2023年12月から、調剤ミス防止システム 「ミスゼロ子」の使用を開始、調剤ミスによる規格間違いや名 称類似による取り違えがなくなり、薬剤師の精神的な負担が 軽減された。操作も簡単で、ピッキングを担う事務スタッフに も好評である。

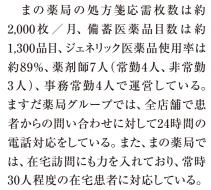
## 面処方で、在宅医療にも注力

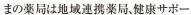
大津市で2004年6月に開局したまの薬局は、滋賀県内に8店 舗を展開するますだ薬局グループの一つで、同グループは、有限 会社メディテック(本社:滋賀県大津市、代表取締役:増田豊氏)



有限会社メディテック代表取 締役の増田豊氏

が運営している。まの薬局はJR湖西 線堅田駅前のロータリーに位置するビ ルの1階にあり、同ビルには皮膚科、眼 科、歯科も入居しているが、通勤者の 利用も多く、滋賀県外も含めた多数の 医療機関の処方箋が持ち込まれる。こ のため、利用者の年齢や疾患も幅広い。







ト薬局の認定を受けている。同薬局管理薬剤師の北川貴子氏は、 「服薬指導にあたっては、生活背景を把握したり、持ち込みの処 方箋以外の薬の相談にも対応できるように、患者さんとのコミュ ニケーションを大切にしています」と語る。



まの薬局はJR湖西線堅田駅前のロータ

## 新しく加わった 「分割出薬機能」も便利

近年、在宅医療に関連した 多職種連携や急な訪問依頼、 医薬品供給の不安定化を背景 にした問い合わせの増加など、 薬剤師の業務は煩雑になって いる。そこで、ますだ薬局グルー プでは、さまざまな機器を積極 的に導入して、薬剤師が対人

業務に時間を割けるよ うに工夫している。

「まの薬局でも薬剤 師が多忙になっていて、 ケアレスミスが心配され る状況で、何らかの監査 機器を入れたいと考え ていました。そんな時に、 ますだ薬局グループの 他薬局で『ミスゼロ子』 を導入していると聞き、 私たちの薬局でも試し てみることにしました」 (北川氏)

「ミスゼロ子」は株式 会社クカメディカルが提 供する調剤ミス防止シ



「ミスゼロ子」を使用しているところ。まの薬局では専 用ハンディ端末を3台利用している

ステム。専用のハンディ端末で医薬品のバーコードを読み取り、 処方箋入力情報と照合することで、調剤ミスを未然に防ぐシステ

「スタッフには幅広い年齢層の方がいるので、使い方に戸惑う 人がいないか心配でしたが、薬剤師も事務スタッフも全員がスムー ズに使えたので導入を決めました」と北川氏は言う。

「ミスゼロ子 | は薬局個々の業務フローに合わせてさまざまな 使い方ができるが、まの薬局ではピッキング時にバーコードを読 み取って照合する使い方をしている。また、同薬局は皮膚科の 処方箋を扱うことが比較的多いが、複数の軟膏やクリームを混 合して使用する場合は、先調剤機能を使い、薬剤ごとのバーコー ドを読み取り、専用プリンターにてレシートに印刷して、監査にま わしている。監査時にバーコードを照合する形で正確を期してお り、混合した薬剤名を後から確認でき安心だと北川氏は話す。

さらに、「ミスゼロ子」の新しい機能である「分割出薬機能」 も便利で活用している。ハンディ端末で不足数量の管理ができ る機能である。調剤時に不足薬がある場合、後日入荷してか ら渡すことがある。そんな時でも、「ミスゼロ子」のシステムを使っ て不足薬数が表示されたレシート・帳票を印刷しておくことで、 残り何錠渡せばよいのかを照合・確認できる仕組みだ。「医薬 品の流通が不安定な昨今、一部だけ患者さんにお渡しすること がしばしばあるので、とても便利な機能です」と北川氏は言う。

ますだ薬局グループでは、大津市にある6店舗すべてで 「ミスゼロ子 | を採用している。

「規格間違いや名称類似による取り違えの心配がなくなること で、薬剤師の心理的な負担を大きく軽減できました」と北川氏は 話す。